

「2×4」でも制震性能発揮

強い粘りと弾性を兼ね備えたタンパーを使い、木造住宅の制震を実現したGVA（ジーバ）工法が、今度はツーバイフォー構造でも十分にその機能を発揮することが証明された。

このGVA工法についての強い抵抗力を付ける。では、開発された直後のしかしGVA工法では、

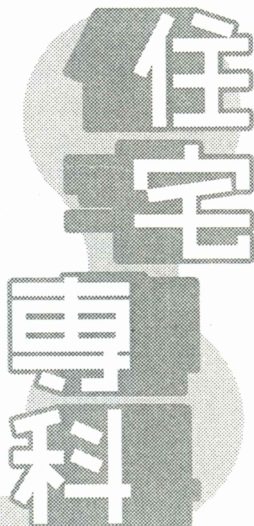
注目のGVA工法

一昨年春、当欄でもその概要を紹介したが、当時のこの工法が採用できるのは、軸組み在来木造だけとされていた。ところがその後の技術改良によって、ツーバイフォー住宅にも十分応用が可能との見通しが立った。先月中旬、実物大のツーバイフォー壁を使った耐震実験が行われ、事前の理論値通りの優れた制震性能が立証された。

制震というのは、地震などの揺れのエネルギーを柔らかく受け止め、吸収してしまおうとする考え方。通常、木造住宅の耐震工法は、基礎をがっちり固め、その上に固定金具等を駆使して地震へ

積み重ねた技術改良

普及加速し採用工務店続々



建物を変形させよとすると地震のエネルギーに対して、強い粘り腰で揺れをかわずタンパー（制震装置）を柱と筋交いの間に取り付け、揺れをソフトに減衰させるわけだ。もとは高層ビルの制震

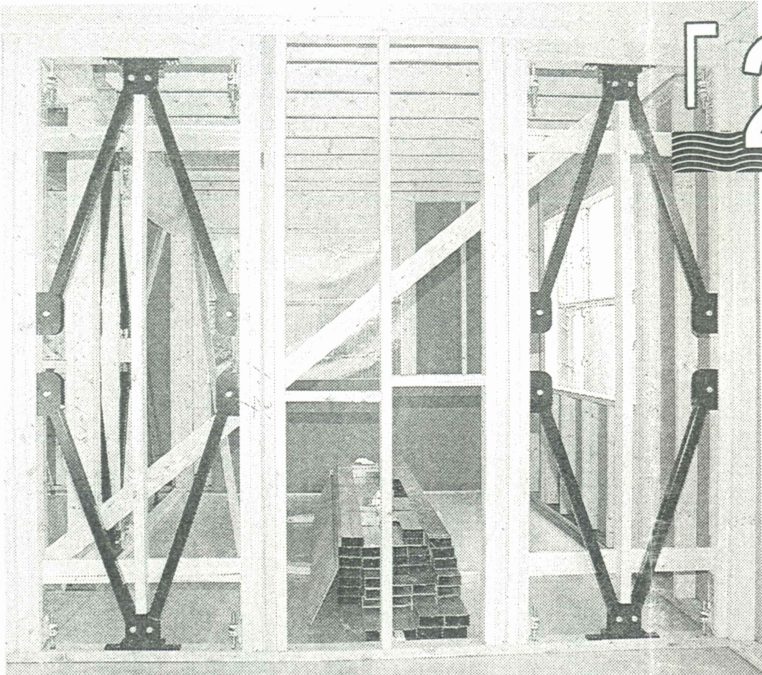
用が開発された技術だったが、これを一般木造住宅用に応用したのが、MASA建築構造設計室の真崎雄一さんで、ビルに比べて軽い木造住宅の場合、強風や交通振動による揺れにも対応しなければならず、その点での工夫が難しかったという。

一般の在来木造では、この二年間にGVA工法を採用する工務店が全国で名乗りを上げてきている。工法普及の事務局を務めるアイ・エム・エー社（本社・東京）では、今後はツーバイフォー分野も含め、さらに本格的普及に努めるため、各地で技術講習会を続けている。住宅の耐震診断技術の指導を行う日本建築防災協会でも、木造住宅での制震による地震エネルギー減衰効果を高く評価しており、普及のスピードは加速しそうだ。

GVAタンパーの取り付け費用は、延べ床面積百二十平方メートルの二階建てで六十万円程度。各種の地震対策の中で、比較的安上がりなことも強みになっている。

GVA工法に関する問い合わせは、アイ・エム・エー代表 03(5160)5160

5) 5160-5160



軸組み木造の筋交い部位にGVA金具を取り付ける